

日本留学フェア参加：JASSO Study in Japan Pavilion 2015

2015年12月19日（土）、20日（日）の両日、日本留学への情報を提供する Study in Japan Pavilion 2015) が日本学生支援機構（JASSO）主催で、ペトロナスツインタワー下にあるクアラルンプールコンベンションセンターで行われた*。筑波大学からはブースでの説明のため、学生交流課から矢内理恵子係長と五十嵐千恵子専門員が参加した。日本からは筑波大学の他、北海道大学、大阪大学、慶応大学など 29 の大学等の参加があった。会場は大賑わいで、筑波大学のブースに次々とマレー人学生が訪れ、質問をしていた。また中には帰国後の大学受験のために情報を入手する日本人親子もみうけられた。

大学等の他には、大阪府や日本国大使館、JASSO、さらには日本語学校のブースがあった。マレーシアの教育システムについては後で説明するが、これら日本語学校は馬国の高等教育に必要な役割を担っているため、今後、マレーシアからの留学生獲得においては、これらの学校への働きかけも重要と感じられた。また、会場では日本に留学したマレーシア人の同窓会組織である東方政策元留学生同窓会とマレーシア元留日学生協会のブース出典もあった。筑波大学マレーシア同窓会の構築・発展も KL オフィスのミッションの一つでもある、杉浦則夫特命教授と岩本浩二准教授（文責）それらブースに赴き、インタビューによる情報収集を行うと共に、今後の連携について協力を呼びかけた。相手側としても日本留学の仲間を増やすことは重要なことであるため、連携協力を積極的であった。また、本フェアにおいては日本留学同窓生がボランティアとして各ブースに通訳等として配置されており、留学生が日本とマレーシアの架け橋としていろいろな方面で活躍していることが実感できた。本フェアへの筑波大学の参加は2年ぶりとのことであるが、マレーシアの学生に筑波大学を説明する良い機会なので、積極的に参加してもらいたい。



筑波大学ブース風景



筑波大学ブースで説明の様子。左から杉浦特命教授、矢内係長、五十嵐専門員。